

祝辞（北条中学校卒業式）

卒業生のみなさん ご卒業おめでとうございます。

みなさんの3年間の中学校生活はどうだったでしょうか。あっという間ではなかったでしょうか。その中で、授業や部活動を通し、楽しかったこと、大変だったことなど沢山の経験をされたことと思います。

一昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響により、この卒業式もそうですが、修学旅行など多くの行事が中止や縮小となったり、思い通りにならなかったり、我慢する場面が多かったと思います。しかしながら、このことで忍耐力と工夫する力がついたと思います。このことは、今後の人生に必ず生きてきます。思い通りにならないことの方が圧倒的に多いからです。またコロナ禍での人権問題に対し、「コロナ差別を許さない」北条中人権宣言を行い、差別をしない、差別を許さない北条中学校をみんなの力で創っていきこうと、取り組んでいただきました。

これらを経験したことによって、みなさんはこのようにたくましく成長されたと思います。

本日をもって、皆さんは義務教育を卒業されます。ここから先は、自分自身の「意思」や「判断」がより尊重されるようになります。これまではどちらかと言えば、一本の敷かれたレールを歩いてきたと思いますが、これからは何本もある道を自分自身で選択し、自らの人生を切り拓いて、歩いて行かなくてはなりません。その時に、迷うことがあると思います。そんな時は、まずは自分で考えて、それでもわからないときは、いつまでも自分一人で悩まず、先生や友達、そして何よりご家族に相談してください。相談は、メールなどの文字より、直接の会話で相談してください。良い解決策が得られると思います。

本日、3月11日は、東日本大震災から11年となりました。今なお、多くの方が避難生活を余儀なくされています。卒業式の開催も苦勞されていることも我々は忘れてはいけません。

また、この度のロシアによるウクライナ侵攻により、多くの市民が犠牲となっています。とても許されることではありません。本町にもウクライナ出身の方もいらっしゃいます。とても心配されています。

そして平成28年の鳥取中部地震、昨年大雨による災害、年末年始の大雪など我々を取り巻く状況は、厳しいものがあります。

このような災害などは、決して他人ごとと思っははいけません。備えをしっかりと行

い、どのような状況でも対応できる人に成長して行っていただきたいと思います。

そして、災害にあったときは、まずは自分の命を守り、愛する人や困っている人を助けましょう。そんな人になっていただきたい。

また、これから多くのピンチ（できないことや嫌なこと）に遭遇すると思います。いわゆる“壁”というものです。しかしながら「壁というものは、できる人にしかやっこない。超えられる可能性がある人にしかやっこない。だから、壁がある時がチャンスだと思っている。」元プロ野球選手のイチロー氏の言葉です。ピンチと対峙した時は、後ろ向きに捉えるのではなく、前向きに挑んでみましょう。きっと明るい方向に向かうはずですよ。

北栄町は、皆さんのように前途洋々というわけではありません。毎年、人口が減少しています。このまま減少していくと、これまでできていたこともできなくなります。みなさんでいうと、部活などで人が足りなくできなかったという経験をされたことがあると思います。北栄町もこの課題に対し、いろいろなことに取り組んでいます。

そこで皆さんにお願いです。将来、町外、県外に出ていくことがあるかもしれません。ですが、知識や経験を身に着け、いつかは、この地にもどってきて、持続可能なまちづくりに取り組んでいただきたいと思います。皆さんのホームグラウンド（本拠地）はここですよから。

保護者の皆様におかれましては、このように立派に成長されたお子さんの姿を前に感激もひとしおのことと心よりお喜び申し上げます。今後もしっかり向き合っ、家族として・人生の良き先輩として、アドバイスをいただきますよう、よろしくお願ひします。

また、熱心にご指導いただきました先生方のご苦勞に対し、敬意と感謝の意を表しますとともに今後もあたたかく見守っていただきたいと思ひます。

終わりに卒業生のみなさんの健やかな成長と光輝く前途を祝し、お祝ひのことばといたします。

令和4年3月11日
北栄町長 手嶋俊樹